

2018年6月25日付け

緊急リリース

KH1/KH7Z の運用がいよいよ開始されます。チームを乗せた船は、順調に航海を続け、予定より早くベーカー島に到着します。日本時間の26日朝に島へ到着、上陸準備を開始します。上陸後無線設備の設営次第 QRV となります。運用周波数は、英語版 Web サイトのバンドプランを参照して下さい。

<http://www.baker2018.net/pages/plan.html>

必要なお知らせ

KH1/KH7Z での FT8 DXpedition Mode の設定についてのお願い

KH7Z/MM で運用された現地の JN1THL 田沼さんからの報告で、FT8 の DXpedition Mode に対応していない局が多く見受けられ、交信がうまくいかないケースがあるそうです。再度、皆様の FT8 の設定を確認して頂き、スムーズな交信が出来るようお願いいたします。

なお、FT8 の DXpedition Mode は WSJT-X の最新リリース版をインストールしただけでは、その機能が使えません。FT8 の Settings で「Hound」チェック等の各種設定が必須です。詳細は、下記にある日本語版解説(最新版)を熟読し、正しい設定での運用をお願いいたします。

FT8 DXpedition Mode の日本語版解説(最新版)は下記でダウンロードできます。

http://www.qsl.net/ja7ude/wsjt/FT8_dxpedition_mode_JP.pdf

下記は、主な設定と注意についてのリストです。

1) DXpedition Mode で使うソフトは、WSJT-X の最新リリース版 1.9.1 のみ

JTDX は、DXpedition Mode に対応していないので、使用出来ません。

必ず、WSJT-X の最新リリース版 1.9.1 をダウンロードして使って下さい。

Windows 版のダウンロードは以下の URL で出来ます。

<https://physics.princeton.edu/pulsar/k1jt/wsjtx-1.9.1-win32.exe>

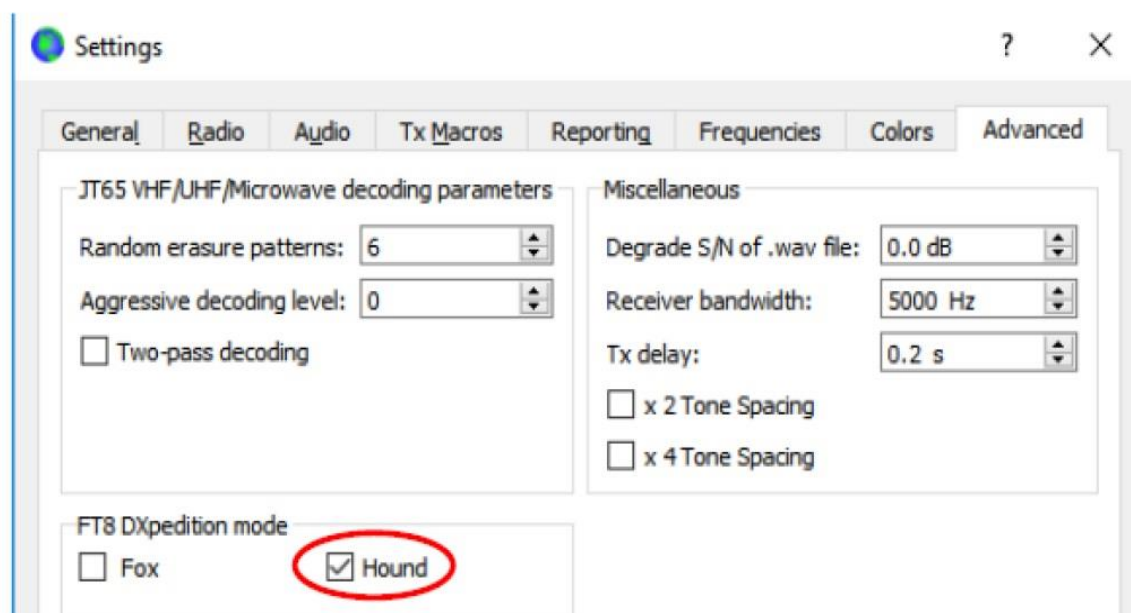
2) WSJT-X の最新リリース版 1.9.1 をインストールしたら、FT8 の DXpedition Mode の設定をおこないます。

これは FT8 の Settings 等で行います。なにも設定しなければ通常 mode での交信となってしまいます。通常の FT8 mode と DXpedition Mode は、同じソフトで設定を変えることで切り替えます。明確な DXpedition Mode という切り替えボタンがあるわけではないので、設定に注意が必要です。

3) 呼ぶ側「hound」の設定

File ⇒ Settings ⇒ Advanced で「Hound」にチェックを入れます。これで FT8 DXpedition Mode で呼ぶ側の設定になります。（DXpedition Mode への設定はこれだけです）

Settings | Advanced タブの FT8 DXpedition mode で Hound をチェックします。Fox を通常の FT8 モードで呼ばないように注意してください。

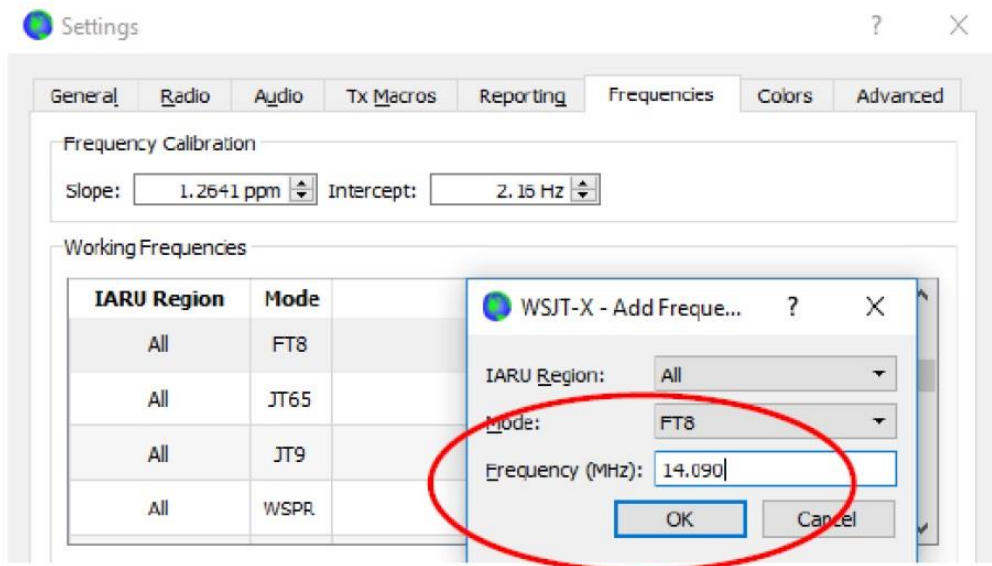


4) KH1/KH7Z の FT8 周波数の登録

DXpedition Mode は、通常の FT8 周波数を使用しません。WSJT-X の作業周波数リストに KH1 / KH7Z FT8 周波数リストを追加して下さい。File⇒ Settings ⇒ Frequencies で、Working frequency の枠内を右クリックします。ここに KH1 が使用する FT8 周波数を追加します。

KH1 が使用する FT8 周波数は KH1/KH7Z ウェブサイトの Operating Plan を参照してください。 <http://www.baker2018.net/pages/plan.html>

WSJT-XをFT8モードし、周波数をあらかじめアナウンスされた値に設定します。もし、周波数が Settings | FrequenciesタブのWorking Frequenciesに載っていないならば、ユーザーが追加しなければなりません。Working Frequenciesテーブルを右クリックし、Insertを選択、そして、Mode = FT8 を選び、周波数をMHz単位で入力します。いくつでも、バンドと周波数を登録することができます。



5) Split Operation の設定

File ⇒ Settings ⇒ Radio で Split Operation を、Rig または Fake It に設定します。

- すべての局は、WSJT-XのSetting|Radioタブで、Split部分をRigまたはFake Itに設定し、CATを使います。

Split Operation

None Rig Fake It

6) General Tab の設定

File ⇒ Settings ⇒ General で、Monitor returns to last used frequency と Double-click on call sets Tx enable の 2 つをチェックします。

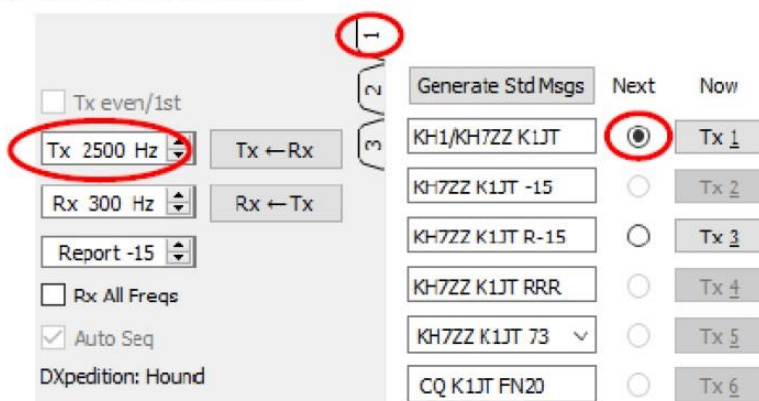
Settings | General タブで、Double-click on call sets Tx enable をチェックします。



7) 送信周波数の設定

送信周波数を Wide Graph 上で Shift+クリックして設定します。1,000Hz 未満は、Fox 側とコールバックがあった Hound が使用するため、1,000Hz 未満で送信した場合 Hound の信号は無視されます。必ず 1,000Hz 以上で呼んで下さい。

主画面の Tab 1 で送信周波数 Tx nnnn Hz を 1,000 から 4,000Hz の間に設定します。送信周波数はウォーターフォールウィンドウで Shift+クリックで設定することも出来ます。3000Hz 以上は QRM が少ないかもしれません。



8) QS0 の方法について

Hound(自局のコール)に応答があった場合、自動的に Fox 側の周波数(300Hz~900Hz)に QSY して「R+レポート」が Fox に送信されます。ですので、300Hz でも問題なく送信できることを予め確認しておく必要があります。(送信帯域フィルター外となった場合、パワーが出ず送信出来ないことがあります)

9) Fox 側からの「RR73」の確認が出来なかった場合

Fox の周波数(300Hz~900Hz)に QSY した後に、Fox 側からの「RR73」が来なかった場合は、自動的に更に 300Hz 程度上に Hound(自局)が QSY して「R+レポート」が Fox に送信されます。この動作は Enable Tx を OFF にしても再送されるため、離席する場合は注意が必要です。

10) QS0 の完了

Fox 側から「RR73」が来て QS0 完了し、ログインされます。
なお Hound(自局)が「RR73」を受信できず繰り返し「R+レポート」を送り続けた場合、Fox は「RR73」を 3 回まで送信します。

11) パソコンの時計

基本的なことですが、正確な時刻合わせをして下さい。PC の時計を GPS 時間の ± 1 秒以内に保つことは、適切なデコードのために必須です。

FT8 DXpedition Mode の日本語版解説(最新版)を参照し、自局を Hound に設定、送信周波数を正しく追加設定して、FT8 の DXpedition Mode を運用してください。